

予報期間 9月8日から9月14日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 10日から11日は、前線が本州付近にのびてゆっくり南下する。高気圧が沿海州から北海道に移動する。
- 12日は、高気圧が千島近海に移動し、日本海に張り出す。前線は本州南岸付近に南下して不明瞭となる。
- 13日から14日は、低気圧が日本海から北日本を通過して、前線が東日本日本海側から西日本日本海側にのびる。

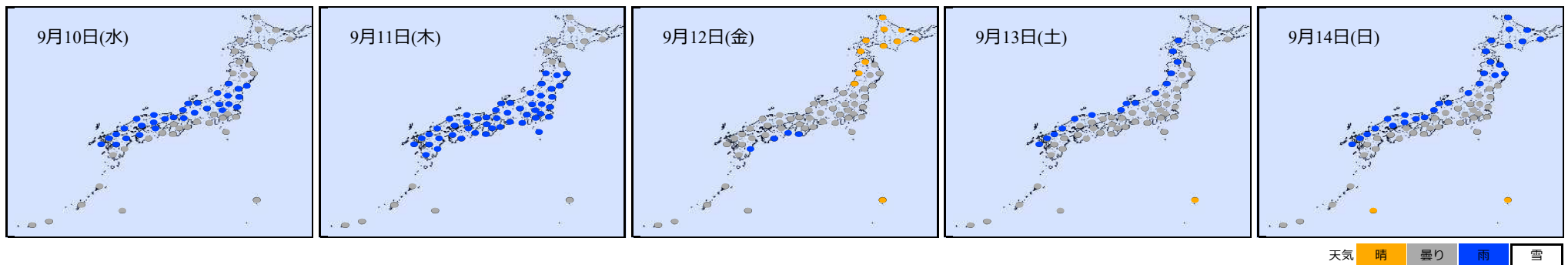
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 10日頃は、前線に暖かく湿った空気が流れ込むため、西日本日本海側を中心に大雨となる所があり、前線の活動の程度等によっては警報級の大雨となるおそれがある。
- 東日本と西日本、沖縄・奄美では気温がかなり高くなり、最高気温が35度以上となる所がある。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

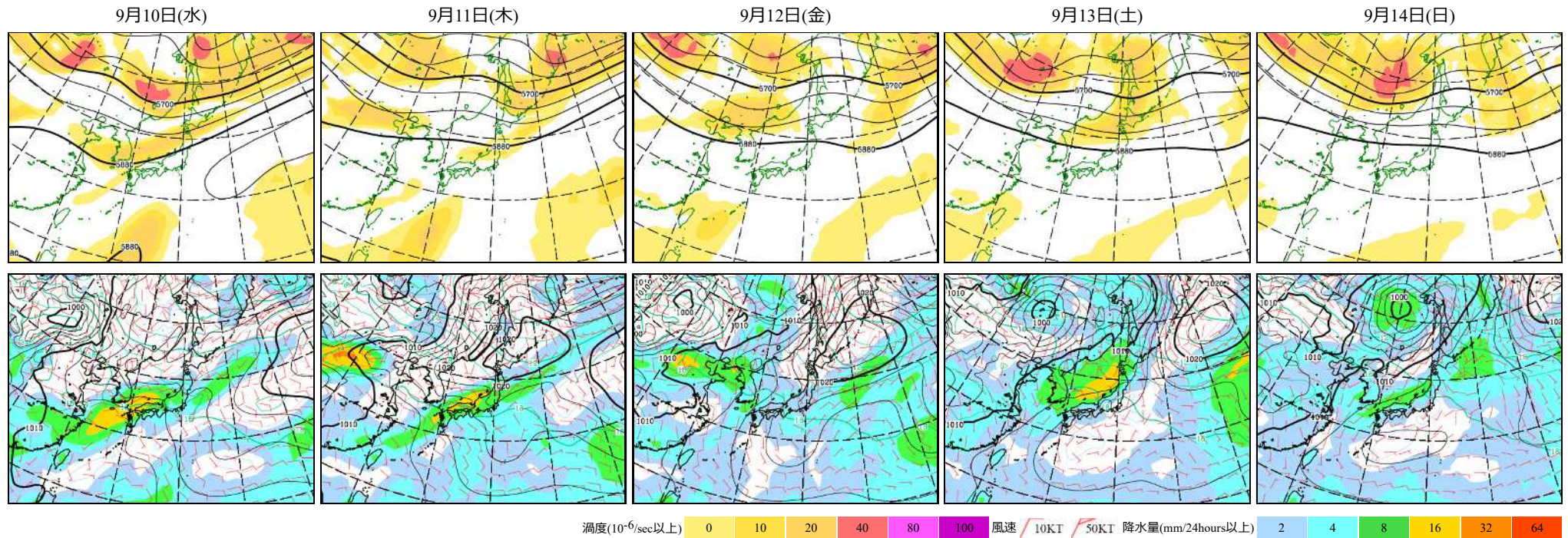
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

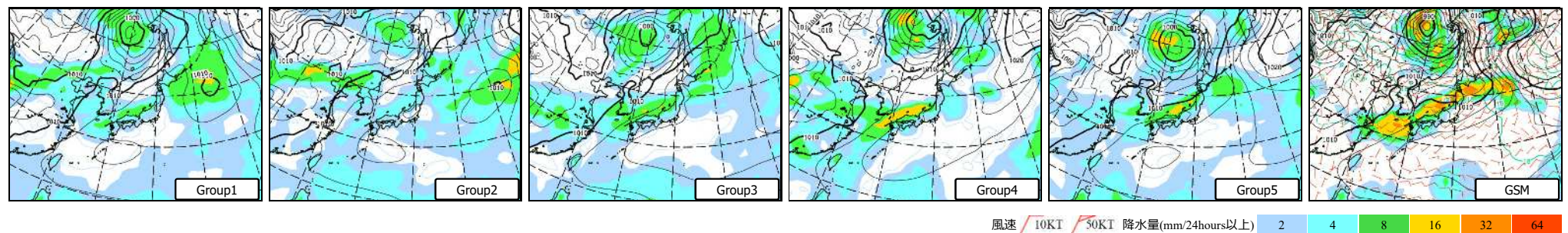


- 北海道地方は、雲が広がりやすく、13日から14日は雨の降る所があるが、12日は晴れる所が多い。
- 東北地方と東日本、西日本は、曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、雲の広がりやすい天気が続く。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆9月14日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、上空の流れに大きな初期値変わりはない。期間の終わりは、中国東北区を進む500hPa5700m付近のトラフの東進がやや早まった。地上は、12日から13日に北海道から千島近海に移動する高気圧の勢力が強まった。
- 12日までの予想はモデル間で比較的揃っているが、13日以降の日本海を進むトラフの深さ等は初期値変わりやモデル間の差が見られる。ENSやGSMは日本海から北日本を進む低気圧は弱い予想だが、海外モデルは日本海のトラフが深く、低気圧が発達しながら日本海から北海道の北に北上する予想となっている。北日本の天気の流れ具合には不確実性がある。
- 13日から14日の低気圧の予想は、ENSメンバー間でもバラツキが見られる。海外モデルの様に低気圧を発達させる予想のメンバーも存在するが、進むコースや北日本を通過するタイミング等については相違がある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考えるが、13日から14日の低気圧に伴う降水分布については、海外モデルの予想も参考にする。